

## 令和7年度 第1回 玉野市観光振興会議 会議録

日 時 令和8年3月13日（金）13:30～15:00

場 所 産業振興ビル3階 展示・会議室

出席者 別紙概要書のとおり

### 1 開会

柴田市長あいさつ

### 2 委員紹介

### 3 会長、副会長の選出

会長：山陽学園大学 中村委員、副会長：玉野市観光協会 山根委員

### 4 議 題

玉野市観光振興計画（基本理念・基本方針）の策定等について

#### ○計画策定の背景と趣旨

玉野市観光振興計画は平成24年の策定以降、長らく更新が行われていなかったが、近年では瀬戸内国際芸術祭の会場となるなど国内外から多くの観光客が訪れ、民間投資も活発化していることから、14年ぶりに新たな「玉野市観光振興計画」を策定することとなった。

計画期間：令和9年度～令和13年度（5年間）

#### ○策定スケジュール

令和7年度（今年度）：基本理念および基本方針の策定

令和8年度（来年度）：具体的な施策となるアクションプランを含む観光振興計画の策定

令和9年度：計画の本格運用開始

#### ○観光動態調査の結果報告（基礎調査）

モバイルデータを活用した基礎調査により、以下の現状が明らかとなった。

- ・観光客数と構成：年間観光客数は約65万人（令和6年度数値）。そのうち日帰り客が76%を占め、宿泊客は24%に留まっている。
- ・訪問エリアと季節性：岡山県内および近隣（広島、兵庫、大阪）からの訪問が多く、ピークは5月（ゴールデンウィーク）と8月（夏休み）である。
- ・インバウンド（外国人観光客）：年間約2万人で、アメリカやオーストラリアからのクルーズ船寄港が大きな影響を与えており、アジア圏（台湾、中国、韓国）も約4割を占めている。

## ○基本理念と基本方針の提案

事務局より、以下案を提示した。

- ・基本理念：「来て、見て、住みたい、にぎわいあふれるまち」
- ・基本方針：「多くの人から選ばれ、滞在してもらえるまちへの転換」  
これまでの「通過型観光」から脱却し、「滞在（宿泊）」に重点を置いた施策を推進する。
- ・基本施策軸：目的地化、滞在価値の強化、地域資源の活用、二次交通の確保、データに基づくマーケティングなど 11 項目
- ・エリア設定：ゲートウェイエリア（宇野港・駅周辺）、自然絶景体験エリア（渋川・王子が岳周辺）、サイクル・パークエリア（競輪場～田井みなと公園周辺）、自然レジャーエリア（みやま公園周辺）、歴史文化と食財エリア（常山～東兎地区周辺）

## ○各委員の主な意見と質疑応答

- ・施策の追加：項目に「ビジターバス（来客用船着場）」の検討を付け加えてほしい。
- ・資金面の実効性：計画が「絵に描いた餅」にならないよう、どの程度の予算や補助金が活用可能なのか、開発のボリューム感を明確に示すべきである。
- ・民間の活力：現在の玉野の賑わいは、行政主導というより民間店舗の集積による「他力本願」的な側面が強いため、今後は自律的な観光振興を目指すべきである。
- ・ターゲットの細分化：世代（家族、若者）、時間帯、国内外によってニーズが異なるため、ひと括りにせずターゲットを絞り込んで施策を打つ必要がある。
- ・二次交通の基盤整備：夜間にタクシーが捕まらない、飲酒後の代行業者がないといった、観光の基礎となる交通インフラの改善が不可欠である。
- ・若手プレイヤーの巻き込み：実際に街のイメージを変えているのは移住者や若手プレイヤーである。彼らの意見を聴く「分科会」を設けるべきと考える。
- ・将来像の視覚化：5年後・10年後の姿を絵（イラスト）で示すなど、関係者がワクワクし、投資したくなるようなイメージの提示が必要である。
- ・データの詳細化：提示されたモバイルデータは大まかすぎる。エリアごと（渋川に何をしに来ているか等）のより詳細な分析が、具体的なアイデア創出には必要である。
- ・現場の声の反映：毎日観光客と接している実務者や若者の「生の声」を、計画に反映させる仕組みが必要である。
- ・インパクトの不足：提示された施策軸が 10 年前と大差なく、全体的にインパクトが弱い。もっと尖った魅力や食の情報を拾い上げるべきである。
- ・広域移動の課題：玉野市は東西に広いため、サイクリングだけでなく公共交通機関の充実も併せて考えるべきである。
- ・SNS の重要性：紙媒体の広告はほぼ機能していない。SNS やデジタル広告を戦略的に活用し、認知度を高めることが重要である。
- ・アクセス改善：宿泊を伸ばすには、JR や車での移動方法を考慮したアクセスの利便性向上が不可欠である。

- ・空港アクセスの欠如：岡山空港からのエアポートリムジンが無いなど、広域からの二次交通に課題がある。
- ・車中泊需要への注目：実際にみやま公園では夜間の駐車場利用（宿泊を伴う休憩）が多く、こうした層をどう取り込むかの視点も必要である。
- ・行政の柔軟性：何か新しいことをしようとする、行政から「法律や土地の制約でダメ」と言われることが多い。ダメと言うだけでなく、どうすれば実現できるかを一緒に考えてほしい。
- ・投資の選択と集中：深山イギリス庭園のイルミネーションのように、少ない予算で大きな集客を生む施策を評価し、より効果的な場所に投資すべきである。
- ・施策の体系化：11の施策軸は並列では多すぎる。内容を整理し、より分かりやすく体系化すべきである。
- ・自分ごと化の推進：観光客、事業者、地域の三方が良くなる「三方よし」を目指し、地元の人が観光を「自分ごと」として誇れるような循環を作るべきである。
- ・港湾との連携：国が策定を進めている宇野港宇野地区中長期ビジョンとの方向性を合わせ、海上交通と陸上交通の結節点としての機能を強化していくべきである。
- ・クルーズ船の活用：岡山県内でクルーズ船が来るのは宇野港だけという強みを、計画にしっかり盛り込むべきである。
- ・民間投資の誘致：自治体の資金のみでは限界がある。外からの大きな民間投資を呼び込むために、行政は民間が入りやすい「ウェルカムな姿勢」を示すことが、大きな観光産業を育てる鍵になる。
- ・観光産業による経済循環の仕組み：宿泊・飲食・公共交通が単なるサービスではなく、観光産業として経済が循環するための仕組みである。インバウンドも含めて、国内外から多くの方が宇野を通過して直島に行っており、宿泊需要が増えてきている。こうした流れの中で、11個の施策軸は全てチャレンジしていきたいこと。今後も皆さんの意見を聞き、玉野市の持続可能なまちづくりにつながる一つの大きな観光産業を実施していきたいと考えている。

#### ○中村会長による意見集約

計画の体系化と整理の必要性：提示された11個の施策軸について、「並列に並んでいてメリハリがない」「項目が多い」という委員の意見を受け、これらをより分かりやすく体系化すべきだと意見があった。対処としては、施策の背景となる課題を整理した上で、5つの重点エリアと11の施策軸をマトリックス（行列）状に整理していく方向性を示した。

委員意見の反映とブラッシュアップ：会議のまとめとして、提示された基本理念や方針自体に根本的な異論はないとしつつも、出された意見（データの詳細化、資金面の明確化、若手プレイヤーの巻き込みなど）を極力反映させ、内容をブラッシュアップした上でアクションプランへ移行すべきであると述べた。

○事務局回答およびまとめ

委員の意見を受け、次年度のアクションプランを含む観光振興計画の策定においては、若手プレイヤーの意見聴取の場を検討し、データを詳細化した上で、市民の皆さんがわくわくする将来イメージ（ビジュアル化）を盛り込んでいくこととした。

○次回開催予定

令和8年9月頃